

第 3 部 知的障害養護学校における実践

個別の指導計画と授業の展開

- 国立久里浜養護学校における実践 -

斉藤 宇開 (国立久里浜養護学校)

奥 政治 (国立久里浜養護学校)

・本校の個別の指導計画の特徴

本校では「一人一人のニーズに応じた特別な支援を目指して」という研究主題を設定して全職員で研究に取り組んでおり、個別の指導計画については、年間個別指導計画という名称を用いている。この年間個別指導計画の特徴としては、以下の3点が挙げられる。

- 1) 学校創設以来、重度・重複障害のある幼児児童を教育の対象としていることもあり、自立活動を主とした教育課程を編成している。
- 2) 実践研究校であることに加え、国立特殊教育総合研究所と日常的に連携・協力を行っていることから、綿密に計画、結果、評価が行われる環境が整っている。
- 3) 年間個別指導計画の作成にあたっては、基本的な事項を教務部が提示しているが、詳細な書式や記載方法等については、それぞれの担任に任されている。

・年間個別指導計画の目的と内容

平成13年度の年間個別指導計画作成に関する指針は、以下のようなものであった。

1. 作成・活用のねらい

- 1) 学校の教育目標を達成するために、教育課程に基づき、一人一人の幼児児童の実態に応じた教育の内容等を、具体的に組織化したものを作成し、日々の教育実践に生かす。
- 2) 教室等のスタッフと年間個別指導計画に関する情報を共有化する。
- 3) 実践の積み重ねを生かし、引き継ぎの資料とする。
- 4) 保護者との連携を図る際の資料の一つとする。

2. 記載事項

- 1) 氏名、生年月日、学部・学年、性別
- 2) 担任教諭名
- 3) 実態：指導計画に関連する事柄にしばってまとめる。

4) 重点指導課題(長期目標)：今年度の指導のねらいを、主に自立活動の内容と関連させて記述する。

5) 課題設定の理由：各重点指導課題ごとに、その設定の理由を簡潔に記述する。

6) 計画

(1) ねらい(短期目標)：長期目標を学期ごとに具体化した1学期間のねらいを設定する。

(2) 内容・方法及び配慮事項：それぞれ項を分けて記述する。内容・方法については、教育課程のどの学習活動(生活活動、課題活動、遊び活動など)に位置付くのかについても、併せて記述する。

(3) 日課表：学期ごとに記載する。変更しない場合は、その旨記述する。

7) 経過：評価と別の項立てとする。

8) 評価：経過と別の項立てとする。

3. 記載に当たって

1) 内容、項目、記載方法を整理して、できる限りシンプルに記述する。

2) 実態把握表、月のシートなど、今までの研究等を参考に自由に記載する。

3) 実態把握については、個々の幼児児童に応じて行う。

4) 重点指導課題と自立活動との関連について記載するようにする(区分若しくは項目)。

5) ねらいについては、評価基準を考慮しながら設定する。

6) 内容と方法については、できる限り具体的に記述する。

7) 指導経過から形成的な評価を適宜行い、必要があれば計画も変更する。

8) 教室で検討する際は、「年間個別指導計画」の内容について共通理解を図る。

9) 読みやすいように、文字は10~12ポイントで作成する。